

2019 年度さくらねこ無料不妊手術事業

団体枠アンケート 集計結果

さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」はノラ猫や多頭飼育の猫に対し不妊手術を行い、猫への苦情や、殺処分への減少に寄与する活動です。

2019 年度は 2,510 名の個人(一般枠)、19 団体、118 の行政と協働し、約 3 万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

1. アンケート概要

2019 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(団体枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※団体枠とは：行政枠に属さない団体、NPO 法人、自治会

団体枠登録対象者

団体枠 A=【公益財団法人、公益社団法人、NPO 法人、認定 NPO 法人、一般財団法人、一般社団法人】のうち、どうぶつ基金の地域相談窓口として紹介されること、相談者に対応することに同意した団体

※地方公共団体が運営している施設(公園等)の管理を委託されている指定管理者は行政枠にあたるために含まれない。

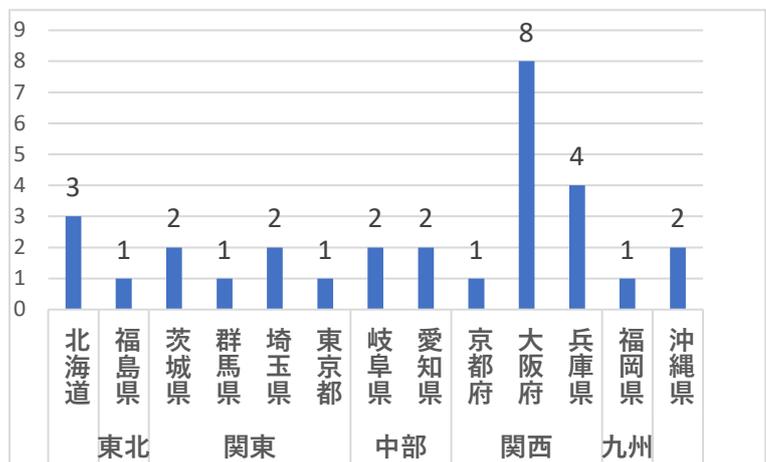
団体枠 B=学校法人、自治会連合会、自治会(チケット使用対象地域は自治会や学校の管轄内の猫に限る)

- 2019 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請数 19 件
- アンケート依頼時(2020 年 1 月 15 日)のマイページ登録者数 45 件
- アンケート有効回答数 30 件 (マイページ団体数 45 件中)

2. 都道府県別団体数

約 30%が大阪でした。

一般枠のアンケート結果からも大阪で特にさくらねこ TNR が普及していることが示されており、団体についても同じ傾向であることがわかります。



3. 配布チケット数について

2019 年度に配布を受けたチケット数	票数	%
0	2	7%
1～10	9	30%
11～30	6	20%
31～60	5	17%
61～100	3	10%
100～200	4	13%
201 以上	1	3%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	8	27%
80～99%	7	23%
60～79%	8	27%
40～59%	1	3%
20～39%	0	0%
1～19%	0	0%
使わなかった	6	20%

77%の団体が 60%以上の使用率でした。

4. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	2	7%
いいえ	28	93%

一般枠の 5%より少し多いものの、行政に公式に認められた地域猫はわずか 7%でした。

あなたがエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	9	30.0%
1	0	0%
2～5	3	10.0%
6～10	1	3.3%
11～15	4	13.3%
15～20	3	10.0%
21～30	4	13.3%
31～50	0	0%
51～80	4	13.3%
81～250	2	6.7%
250～500	0	0%

5. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	28	93%
猫の性格が穏やかになった	13	43%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	19	63%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	8	27%
猫の健康状態が良くなった	9	30%
その他	2	7%

その他を選択した団体からは、「今のところ変化が感じられない」といった回答が寄せられています。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	19	63%
猫の数は変わらない	11	37%
猫の数が増えた	0	0%

今回のアンケート結果では、「猫の数が増えた」を選択した団体はありませんでした。TNR が確実に効果をあげていることが伺えます。

6. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	18	60%
苦情が減った	13	43%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	10	33%
協力してくれるひが増えた(できた)	18	60%
地域の人に感謝された	15	50%
猫を可愛がってくれる人が増えた	6	20%
その他	3	10%

その他を選択した団体からは、「猫が好きではないが、地域の問題として見守りに参加してくれる住民の方が増えた」、「捕獲の前の餌付けの段階で近隣住民に個別に説明することで猫嫌いの住民の方からも理解を得られた」という報告がありました。

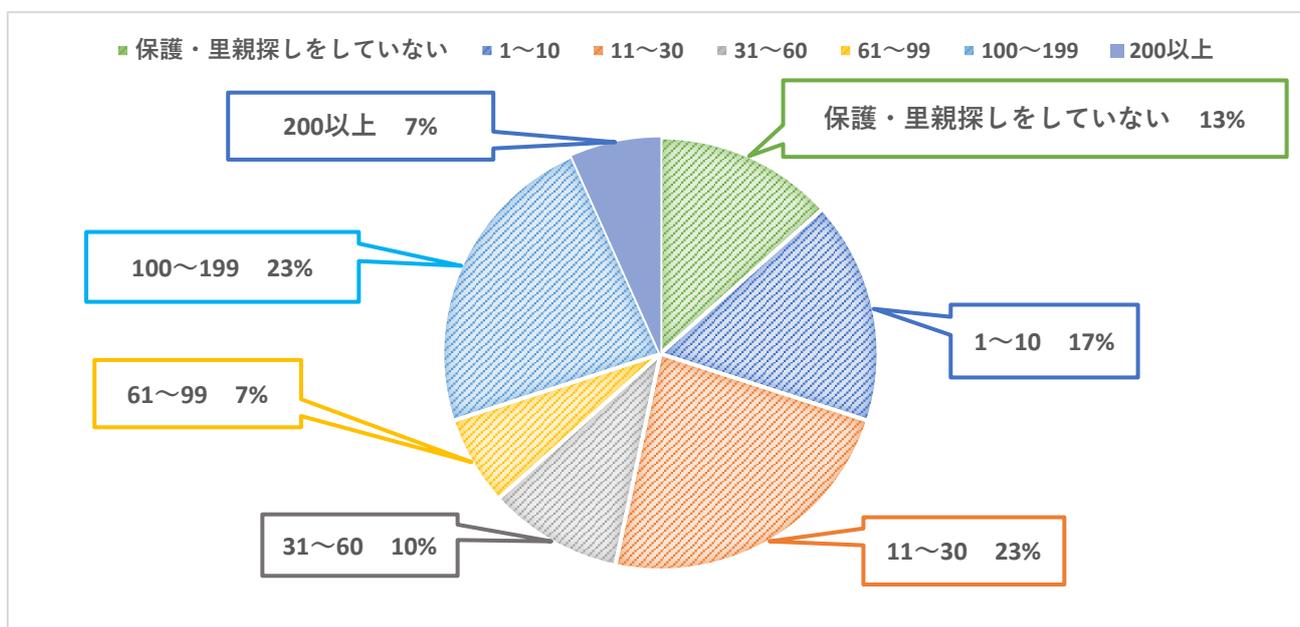
その一方で、もともと地域猫に反対していた近隣の方の抵抗がより強くなったという地域もありました。

住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	11	48%
変わらない	12	52%
悪くなった	0	0%

7. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	27	90%
いいえ	3	10%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
1～10	5	16.7%
11～30	7	23.3%
31～60	3	10.0%
61～99	2	6.7%
100～199	7	23.3%
200 以上	2	6.7%
0	4	13.3%



回答した 30 団体で合計 2,560 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	5	16.7%
1	0	0.0%
2~5	0	0.0%
6~10	3	10.0%
11~15	3	10.0%
15~20	1	3.3%
21~30	2	6.7%
31~50	4	13.3%
51~80	3	10.0%
81~100	2	6.7%
101 以上	7	23.3%

8. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	25	83%
資金不足	27	90%
捕獲がうまくできない	10	33%
行政との調整	13	43%
地元地域との調整	15	50%
その他	2	7%
特になし	1	3%

9. 飼い猫の捕獲について

2019 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	6	20%
いいえ	24	80%

アンケート回答者 30 団体のうち 6 団体(20%)が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答しましたが、手術まで至った例はありませんでした。(飼い猫と判明した時点でリターンした。)

10. ピックアップコメント

●皆様のご寄付のおかげで、多頭飼育崩壊寸前の飼い主さんと、たくさんの猫たちの生活を立て直すことができました。本当にありがとうございました！

●毎月多いときでは 50 件の猫の相談が入ります。どうぶつ基金様のチケットを使わせていただけることで、解決の糸口となり、不幸な命を生み出さない活動に取り組むことが出来ています。支えていただいて本当にありがとうございます。皆様の暖かいお気持ちにボランティア一同、心から感謝をしております。

●自治会で町内の一斉 TNR に取り組んでいます。自治会費だけでは資金的に厳しいため大変ありがたいです。

●本会は設立以来、人間に遺棄された犬猫の保護、譲渡をメインに活動していますが、それだけではいつまでも蛇口がしまらず、活動する中で悩んでおりました。どうぶつ基金の無料不妊手術チケットのサポートを受けるようになってから、TNR 活動とこれまでの保護・譲渡活動を並走することで、一層前向きな気持ちで活動に取り組むことができるようになりました。あらためて全国から寄せられる尊いお志に感謝いたします。

●地域内の老人が約 30 匹の猫を残して入院、残された猫は多頭崩壊状態で連絡があり、この老人のお願いで猫を保護し、どうぶつ基金様のご協力で不妊手術を致しました。頭数が多いため基金様のご協力なしではどうにもならず本当に助かりました。病気の老人も退院して、今後の事も話し合い猫の今後は安定したと思います。田舎では老人が寂しさのあまり猫にエサを与え増える事案が多くなってきております。予算的にも限りがあり、どうぶつ基金様のお助けがなければどうなっていたかと考える猫班です。どうぶつ基金にご寄付頂きました皆様には本当に感謝と、もしお会いできましたら改善された現状を見て頂きお礼を申し上げたい気持ちです。現場はかなり厳しいのですが、今後ともご寄付を宜しくお願い致します。

●ご寄付を頂いた皆様のおかげで、少しずつですが着実にさくらねこさんが誕生していています。今期は当団体で 44 匹の子がさくらねこになりました。これからも、猫と人の穏やかな共生を目指していきたいと思います。

●寄付という形で支えてくれる仲間がいるということに励まされています。動物好きのみなさまの優しい思いがあるから、私たちは TNR ができました。ありがとうございます。

13. 総括

- 「過去1年間、多頭飼育崩壊の相談を受けたことがありましたか」との質問には、30 団体中 15 団体が「はい」と回答しています。年間 50 頭以上の TNR を実施した団体が複数あり、なかには 1 件で 100 頭を超える多頭飼育崩壊に継続して対応している団体もありました。

個人宅が現場となる多頭飼育崩壊は発覚が遅れることが多く、当事者だけで解決することは困難です。また、介入するには行政の協力が欠かせません。不幸な命を生まないためには、さらなる行政との連携強化が求められます。

- 住民との関係性においては、TNR 後に「悪くなった」と答えた団体はなかったものの、「変わらない」が 52%と一般枠のアンケートと同様の結果です。地域性や、自治会長や町内会長など取りまとめる立場の人柄によっても TNR 後の関係性が大きく左右されていることが見てとれ、苦勞している団体もあります。その反面、「マナーを守った餌やりを徹底したことでゴミをあさられることがなくなった」「ただ餌をあげているだけでなく、増やさないための対策をしていることが理解されて苦情が減った」「事前に近隣住民とよく話し合うことで TNR に対する理解が深まり、苦情を言っていた人に『大変ね』と声をかけられた」といった報告も届いています。

TNR 後の地域猫活動を円滑に進めるためには、さくらねこ TNR 事業に対する理解を得られるよう積極的な働きかけはもちろん、地域の事情をよく理解しているボランティアの方の協力が必要です。

- 今回のアンケートで、捕獲作業中に「猫がかわいそうだ」「人間の勝手に命を操作するなんて…」という意見を一般の方から言われたという団体がありました。ほかにも、活動を行うなかで「不妊手術が自然の摂理に反する、手術を受けさせるのはかわいそう」と考えている人がまだまだ多い、との声も届いています。TNR に関する一般市民の意識を変えていくことが求められており、さらなる普及啓発や広報の必要性を感じさせられます。

- 行政に認められた地域猫活動地域で活動している例は、有効回答 30 件中わずか 2 件でした。一般枠のアンケート結果のみならず、団体枠のアンケートにおいても地域猫活動の普及の難しさが浮き彫りになりました。また、回答した 30 団体のうち、6 団体が自治会でした。自治会は、環境省の奨励する従来型の地域猫活動の中心となる主体ですが、自治体に認められた地域猫活動地域で活動している自治体は 1 件のみ。5 件が認定地域以外で活動していることから、行政の進める地域猫活動が浸透していないことが伺えます。

従来の地域猫活動では、合意形成に時間を要している間に状況が悪化します。行政には、既にさくらねこ TNR 活動を展開している自治会や NPO 法人と連携し、どうぶつ基金の提唱する TNR 先行型地域猫活動の推進と普及啓発に協力することを期待します。行政との連携による成功事例を積み上げることで、他の地方自治体の参加を促すことができ、不幸な命を救う活動はさらに拡大していくでしょう。